

平成31年度

施政方針



平成31年度の予算が3月定例市議会で成立しました。後藤市長は、本年度の予算説明を通じ、市政運営の基本的な方針並びにその主要施策などについて所信の一端を述べ、市民の皆さんの市政に対する深いご理解とご協力をお願いしました。その趣旨は次のとおりです。

平成の時代を経て、元号が変わり、大きな変化の年を迎えます。世界で最も早いスピードで少子高齢化が進む我が国の中で、豊前市は更にその10年先を行っています。今後、人口減少、少子高齢化のなかで地域の

活力を維持していくにはどうしたらよいか、また自然災害に対応するためにはどうしたらよいか、大きな思考の転換が必要になってきます。山積する課題に果敢に取り組み、元氣な豊前市を取り戻すために粉砕努力する覚悟であります。

さて、国においては、「一億総活躍社会の実現を目指し、「三本の矢」を強化して、「新・三本の矢」を放ち、少子高齢化という構造問題に正面から立ち向かい、成長と分配の好循環の実現に向け取り組んでまいりました。成長の果実をしっかりと分配に回すことで、次なる成長につなげていくところです。

我が国の持続的な成長にとって最大の課題は、少子高齢化です。教育にかかる負担を社会全体で分かち合い、子供を生み育てやすい社会へ転換していくため10月から実施される幼児教育の無償化は、大きな改革です。高齢者だけでなく、子ども

もから現役世代まで広く安心を支えていく全世代型社会保障制度を築き上げるため、消費税率の引上げによる安定的な財源確保が必要となります。消費税を全て還元する規模の対策を講じ、景気の回復軌道を確認なものとし「戦後最大のGDP六百兆円」に向けて着実に歩みを進めるとあります。

本市においても、国の動向を注視しながら、市民の皆様のご理解とご協力をいただき、市民サービスの向上に努めてまいります。

昨年、豊前市で初めて部制を導入いたしました。市が抱える重要事項や課題について部長のマネジメンのもと、現場の状況把握、横断的な情報の共有が行われ各部が連携して支えあう仕組みづくりができたと考えます。今後もさらに、市民の立場に寄り添い、協働のまちづくりにつなげられるよう取り組み、より良い体制に改善してまいります。

次に、平成31年度の主要な取り組みについて申し上げます。

外国人労働者との共生

本年4月より、改正入管法が施行されることにより、現在の技能実習生から労働者としての受け入れに転換されます。長期滞在の可能性もあり、共生へとつなげるため、豊前商工会議所や区長会などの団体と協議しながら、受け入れ環境の整備に取り組んでまいります。

安全・安心なまちづくり

温暖化の影響が大といわれる台風、集中豪雨などの異常気象に対応できる強靱なインフラ整備が必要です。能徳アンダーパスの調査、急傾斜地の崩壊対策、ブロック塀の安全対策、庁舎の耐震化、さらに長年の懸案でありました防災行政無線の戸別受信機整備事業等に取り組めます。市民の皆様様の生命・財産を守るべく引き続き災害対策の強化・多重化に取り組んでまいります。

し尿処理

し尿の公共下水道へのつなぎ込みについては、現在、前処理施設の整備事業に取り組んでいます。施設の運営については、無駄を省き、さらなる効率化を進め、吉富町・上毛町の両町に対して、参加・共同運営の提案を行ってまいります。

健康・福祉の充実

人生百年時代を迎え「生涯現役社会づくり」の施策につきましては、ますます重要になります。高齢者が活動的で生きがいのある生活や人生を送ることができるよう健康教室・介護予防教室などの充実に取り組みます。また、住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう地域の支え合いの仕組みづくりを推進してまいります。小中学校、企業などにも出向き、認知症サポーター養成講座等に取り組み理解を深めていただきたいと考えています。

健康増進につきましては、健診や



健康教室

健康教室などの保健指導を通して、生活習慣病予防・重症化予防を図ります。特に、糖尿病重症化予防のため個別指導、フォローを実施してまいります。健診・がん検診の受診率を向上させ、医療費の抑制に努めてまいりますので、皆様のご理解をお願いいたします。

子育て支援につきましては、妊娠前から子育て期に渡るまでの切れ目のない支援を実施する拠点として子育て世代包括支援センターを設置、専門職等を配置し、母子保健サービスと子育て支援サービスを一体的に提供できるよう、きめ細やかな支援を行ってまいります。

産業の振興

観光の活性化につきましては、観光協会がJR宇島駅舎内に移転し、市内外の方にもわかりやすく、情報発信の充実が図られます。また、観光の中心となっているうみでらす豊前や道の駅豊前おこしかけ等さらなる来客数の増を目指し、案内所を活用して求菩提温泉ト仙の郷や求菩提キャンプ場などに回遊していただく流れを作ってまいります。

今後も、森林セラピーなどを通して、リピーターや関係人口の獲得に努めてまいります。

農林水産業につきましては、昨年、豊前市獣肉処理加工施設が完成し、管理組合による本格的な鹿肉・猪肉の商品化が始まりました。地域おこし協力隊の力を借りて、流通販売を行える新たな地域資源として、PRや販路拡大に取り組みしてまいります。また、これまで放置されていた森林について、市が仲介役となり、意欲と能力のある森林経営者に森林経営を委託することや市により管理することができるよう



豊前ジビエセンター

経営管理制度が始まります。このことにより、未間伐林の解消や伐採後の再造林が促進され、災害の防止や森林の公益的機能の維持増進が図られます。

企業の振興につきましては、現在、国内最大級の豊前バイオマス発電所が建設中であり、9月以降試運転を行い、2020年から商業運転を開始する予定です。また、東部工業団地に立地している企業も、拡張が行われており、雇用の拡大が期待されます。

教育・文化の充実

教育につきましては、小学校の外国語活動を充実させます。2020年度(平成32年度)から新たに小学校・中学年で活動型の外国語活動の導入、高学年で教科型の外国語科が実施されることに向けて、移行期間である2019年度の取り組みを充実させます。英語専科講師を活用することに加え、民間より外国人講師を招き、外国語教育の質的向上を図ると共に、未来ある本市の子供たちの外国語力育成を目指し、楽しく充実した学びになるよう学習環境の整備に取り組みます。

中学生のハワイでのホームステイ事業につきましては、国際感覚を持った人材育成のため、継続実施し、あわせて特色ある外国語教育を進める中で、コミュニケーション能力の向上に努めてまいります。

文化の振興につきましては、市民会館、多目的文化交流センターが指定管理施設となり、民間の活力で更に充実した芸術文化活動の推進が期待されます。

豊前市生涯学習推進基本計画に沿って、地域毎に公民館を中心とした地域づくり協議会の設立を進めており、協議会の議論を通じて、地



ホームステイ事業

域づくり計画を策定することで、地域課題の共有・解決を図りたいと考えています。

さらに、史跡求菩提山につきましては、その活用を図るべく計画的に整備を行っておりますが、平成30年度より山中に残されております数少ない建造物である瀧蔵坊(りゅうぞうぼう)の保存修復に着手しております。併せて、その活用について整備基本計画の方針に従い、具体的な検討を進めてまいります。

以上、申し上げてまいりましたとおり、新しい時代に向かって心を新たに、全庁をあげて取り組んでまいりますので、議員並びに市民の皆様のご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。